

## 市民参加の福祉の指標づくりPJ Social - welfare indicator



社会福祉法人黒部市社会福祉協議会  
総務課課長補佐/経営戦略係 小柴徳明  
2021.01.19



## 【仕事】

- 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会  
総務課長補佐 経営戦略係
- 国立研究開発法人情報通信研究機構  
ソーシャルICTシステム研究室 協力研究員

## 【志事】

- NPO法人明日育（あすいく）
- LINEWORKSアンバサダー
- CI-labo（community indicators labo）



YouTube 検索

### 僕のささやかな願い

福祉業界では社協/シャキョウと言うけれど、一般的には全然知られていない社会福祉協議会。

社会福祉法に位置付けられ、全国の市区町村にも設置されている社会福祉法人です。その名の通り本来の目的は「協議会」であって、事業主体ではないんです。

「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」住民主体のまちづくりの推進が目的です。

とは言っても、全国各地でそれぞれの地域の実情に合わせて、様々な取り組みをしています。

そんな中でもちょっと変わった黒部の取り組みもお話ししつつ、社協について知ってもらい、「おおーおもしろいな！今度地元の社協に行ってみよう」って思ってもらえたらうれしいです。

2

社協って何なんだ?! 全国の各地にほぼ必ずあるナゾの組織「社会福祉協議会」(通称:シャキョウ)について語ります。

4,098 回視聴 • 2019/09/04

40 6 共有 保存 ...

## Code for Japan

シビックテックオンラインアカデミー #17

<https://hackmd.io/@codeforjapan/BJ3IEJMZE/%2F9MTizEIIiOO1TFMGm5vdA?type=book>

YouTube

<https://youtu.be/L8qy-YDjfQw>

黒部市社会福祉協議会HP

<http://www.kurobesw.com/>

シンクタンク報告書・広報誌がダウンロードできます。

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

[koshiba-noriaki@kurobesw.jp](mailto:koshiba-noriaki@kurobesw.jp)

質問・疑問なんでもどうぞ。

ICTや新しい技術革新を活かした地域福祉の推進へ shakyo3.0

# スマート社協3.0構想

【5 goals for 黒部】

市民に分かりやすく伝え、  
みんなの目指すべきgoalを示す。



【LINE botによる新たな相談窓口】  
相談のハードルを下げ、  
早くからのリーチをつなげるしくみ  
将来的な情報発信のキーとなるしくみ



【個人活動の可視化】  
社会にどう貢献したかが  
自身の活動ログに見えるようにする。

【地域福祉分野におけるICT利活用実証実験】

支援する人が支援しやすい環境づくり

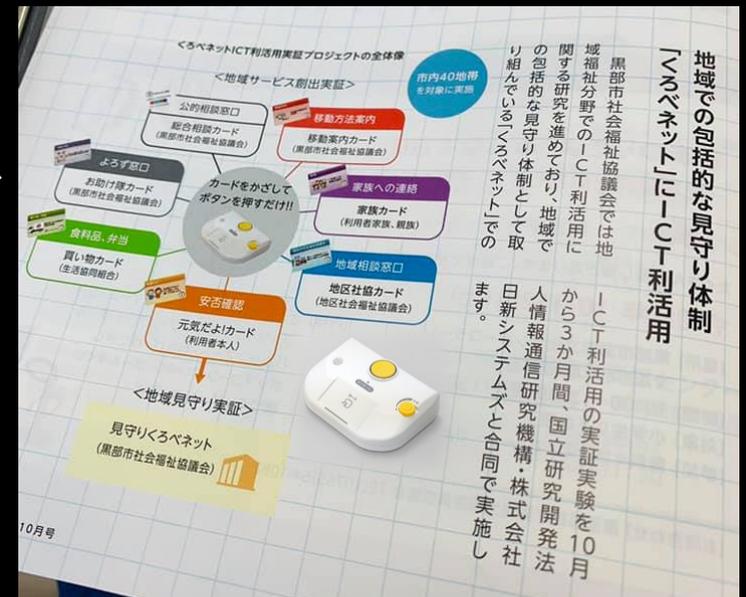
ICTリテラシーが低い、後期高齢者を支える

官民協働のプラットフォーム

※国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社日新システムズ、黒部市社協の三者協定

【ビジネスチャット】

コミュニケーションツール  
働く人がより働きやすく、  
より本業に力を注げるように。



地域での包括的な見守り体制  
くろべネットにICT利活用  
黒部市社会福祉協議会では地域福祉分野でのICT利活用に関する研究を進めており、地域での包括的な見守り体制として取り組んでいるくろべネットです。  
ICT利活用の実証実験を10月から3か月間、国立研究開発法人情報通信研究機構・株式会社日新システムズと合同で実施します。

ICTや新しい技術革新を活かした地域福祉の推進へ shakyo3.0

# スマート社協3.0構想

見える化

【5goals for 黒部】  
市民に分かりやすく伝え、  
みんなの目指すべきgoalを示す。

【個人の活動ログ】  
社会にどう貢献したか、自分自身の  
活動ログが見えるようにする。



## 黒部の福祉を良くする活動計画

Kurobe Social Welfare Action Plan

2019年度 — 2023年度



この活動計画は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標(ゴール)にどんなこと(ターゲット)に力を入れて取り組んでいくかを示すものです。なお、本計画は「第3次黒部市地域福祉活動計画」をわかりやすくまとめたものです。

作成: 第3次黒部市地域福祉活動計画策定委員会 事務局: 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



## 新しい地域福祉活動計画のあり方

### (1) 持続可能な地域づくり

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（エス・ディー・ジーズ）「2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標」は、持続可能な世界を実現するために作られたものです。ここ黒部市においても「持続可能な地域づくり」を目指しながら、SDGsとの関連性も検討しました。またSDGsの策定プロセスを参考に計画づくりに取り組みました。

### (2) 共通のゴールづくり

黒部市社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的存在としてその役割と機能を発揮しつつ、それぞれの団体や活動者など地域福祉に関わる全ての人々が共に目指す目標を明確に示すものを策定していくこととしました。また、地域住民を含め分かりやすく、取り組みやすいデザインや広報啓発を行っていきたいと考えました。

### (3) 参加型での課題整理、目標設定

地域福祉活動に関わる様々な団体や活動者からのアンケート調査、ヒアリング調査、並びに地域福祉活動計画策定委員会によるワーキングにより現状を押さえながら、将来の理想（目標）をイメージし、今後想定される将来像とのギャップを導き出し、その課題解決のための取り組むべきことをまとめていきました。

# 5 GOALS for 黒部 目的

- ①第3次黒部市地域福祉活動計画をシンプルにわかりやすくすること
- ②ともに目指す目標を明確に示すこと
- ③持続可能な地域づくりを目指すこと = SDG s

「5 goals for黒部」(第3次黒部市地域福祉活動計画)は、「お互いさまの社会の実現」を目指し民間の福祉活動団体や活動者が、ここから5年間、何を目標(ゴール)にどんなこと(ターゲット)に力を入れて取り組んでいくかを示すものです。



参加型の活動計画づくりへ



5 ジェンダー平等を実現しよう  
10 人や国の不平等をなくそう  
16 平和と公正をすべての人に  
17 パートナーシップで目標を達成しよう

みんなで学び、みんなで考える場

## くろべのふくしを良くするPJメンバー

氏名	選出区分	職名
岩井 清美	保育	黒部愛児保育園 園長
牟田 光生	NPO	宇奈月自立塾 理事長
村井 圭子	ボランティア	前黒部市地区ボランティア協議会 会長
松原 宗一	社会福祉	黒部市社会福祉協議会 副会長
橋 詰 真知子	主婦	前回の公募委員
山下 ほのか	学生	前回の公募委員
横山 栄一郎	JC	黒部青年会議所 2020年度理事長
鈴木 杏奈	市民	黒部市地域おこし協力隊
上島 晴香	総合振興計画	黒部市総務企画部企画情報課 主幹
尾崎 俊太郎	福祉行政	黒部市福祉課 課長補佐
小泉 祐太郎	若者	にいかわサポートステーション
山本 真也	社協職員	黒部市社会福祉協議会 事務局長
小柴 徳明	社協職員	黒部市社会福祉協議会 課長補佐
高村 彩加	社協職員	黒部市社会福祉協議会 主事
本村 実佳	社協職員	黒部市社会福祉協議会 主事
高村 千恵美	社協職員	黒部市社会福祉協議会 嘱託

## メンバー兼アドバイザー・サポートメンバー

### 下山紗代子

一般社団法人リンクデータ 代表理事  
内閣官房 IT 室 政府 CIO 補佐官  
一般社団法人code for Japan 地域情報化アドバイザー

### 長谷川雅子

一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事

### 鎌倉幸子

株式会社かまくらさちこ 代表取締役  
NPO法人エフアジャパン

### 市川享子

東海大学 健康学部健康マネジメント学科 講師

### 国際交流基金日米センター (foundation)

アメリカCICとの連携事業と資金助成

「見える化」しよう  
くらべのふくし

GOALS for 黒部

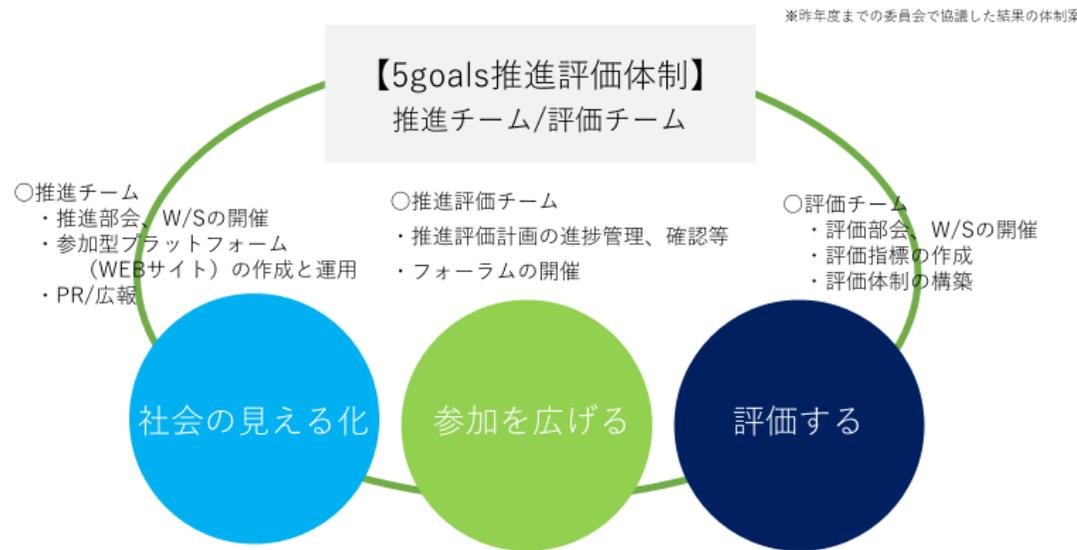
2020年1月18日 土  
10:00-12:15

会場 ホテルアクア黒部 (開催後)

100 円



# 5 GOALS for 黒部 推進評価の体制づくり



やらなきゃいけないことは、そうなんだけどこれでは浸透しない@言葉も体制も！

## キーポイント

### 住民主体でつくる推進と評価

「誰かがつくってくれる、やってくれる」からの脱却

### オープンと共有

開かれた場、みんなが参加できるしくみ

### データの活用

データに基づく根拠と検討 (EBPM)

とすることで、やってみます。  
できることから

### くろべのふくしを良くするプロジェクトチーム

漢字だけの硬いイメージからの脱却

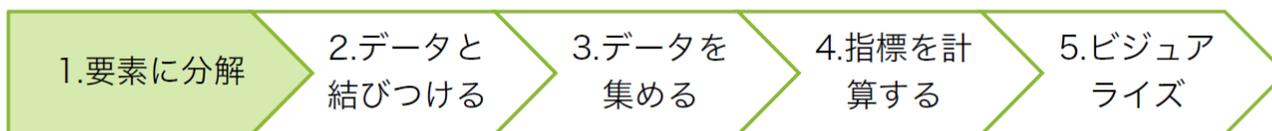
### 全員がメンバー！

関係性をフラットにする、オンラインでの配信もする

### データを見る化

ダッシュボードをつくります

# ステップ1：要素に分解



構成要素として考えられるものを列挙してツリー構造になるように整理する

それぞれの構成要素を測るためにどのようなデータが必要か考える

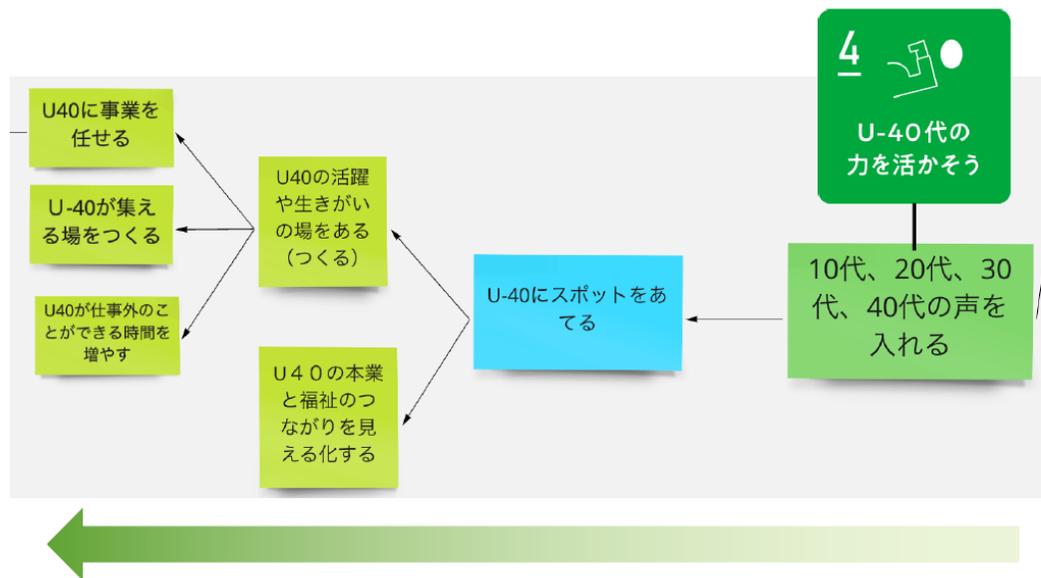
2. で検討したデータが実際にあるか探して収集する

収集したデータを用いて、比較対象別に指標を計算する

算出した指標値を比較しやすくするために可視化する

# ステップ1：要素に分解

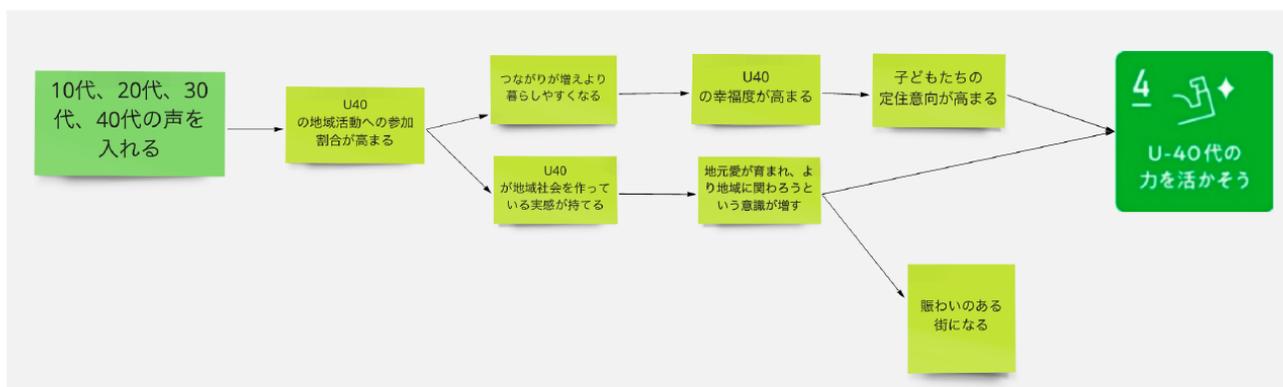
(1) ターゲット項目の実現のためには何が必要か？



ハイライト、  
注釈を追加

# ステップ1：要素に分解

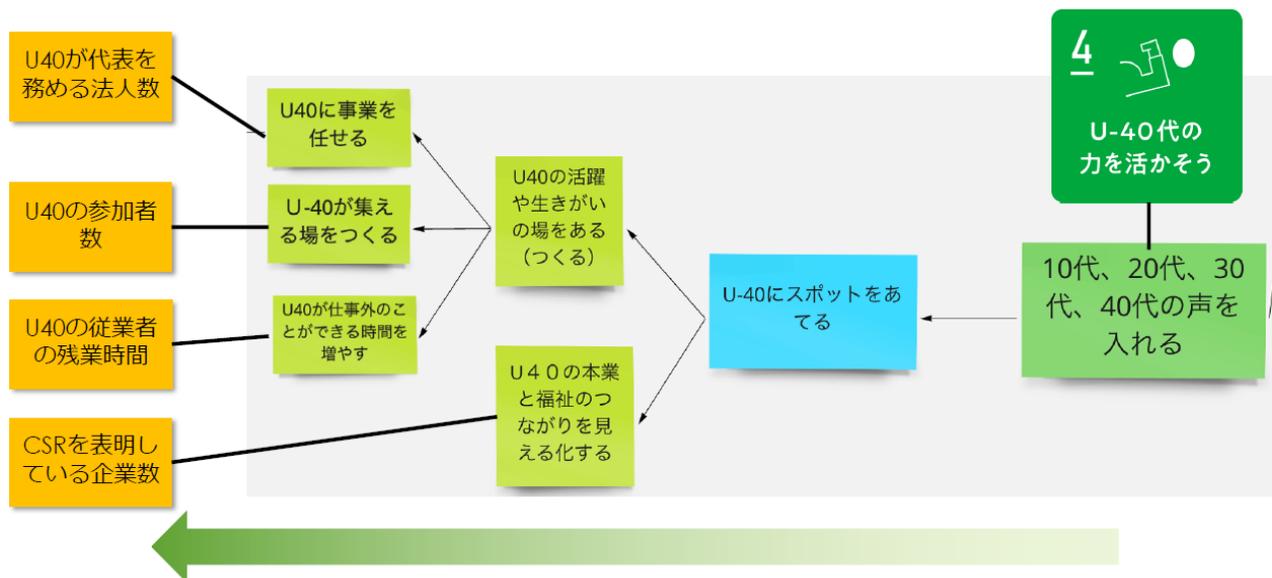
(2) ターゲット項目の実現によってどんな変化が生まれるか？





# ステップ2: データと結び付ける

(1) ターゲット項目の実現のためには何が必要か?



# ステップ3：データを集める

ステップ2で挙げたデータが実際にあるか探して、スプレッドシートで一覧化

000\_使いそうなデータ一覧 ☆ 共有

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール アドオン ヘルプ 最終編集: 昨日の 9:37 (匿名さん)

No	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	No	どのゴール用か	データ名	説明	所有者	出典元	URL	冊子あり/なし	更新頻度	最終更新日	備考
2	1	2.話すことから始めよう	公民館の利用者数	公民館ごとの利用人数や部屋ごとの利用人数あり。予算もある。	黒部市公共施設総合管理班	公共施設現況報告書2018～公共施設白書データ集～	<a href="https://www.city.kurobe.toyama.jp/attach/EDIT/019/019598.pdf">https://www.city.kurobe.toyama.jp/attach/EDIT/019/019598.pdf</a>		毎年	平成31年3月	
3	2	2.話すことから始めよう	市民会館の利用件数、利用者数	市民会館の利用者人数へ部屋ごとの利用件数がわかる	黒部市総務企画部企画情報課	統計黒部	<a href="https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?serverno=3263">https://www.city.kurobe.toyama.jp/category/page.aspx?serverno=3263</a>		毎年	平成30年	
4	3	1.活動人口を増やそう	ボランティア登録者数	年度毎に登録カード提出公開データではない。データ化はされている？	黒部ボランティアセンター	黒部市社会福祉協議会内黒部ボランティアセンター	<a href="https://www.kurobesw.com/home/ボランティア情報/">https://www.kurobesw.com/home/ボランティア情報/</a>		毎年		
5	4	4. U-40 の関わりや参加	(中学生) 福祉体験実習について	平成29年度シンクタンク事業で調査開始、継続していれば採用したい	黒部市社会福祉協議会	平成29年度シンクタンク事業調査報告書	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/1oK11dJP0xsULqsJP3j46uBA1c9mDMHB?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1oK11dJP0xsULqsJP3j46uBA1c9mDMHB?usp=sharing</a>	あり	要確認	平成30年3月	
6	5	4. U-40 の関わりや参加	(高校生) 居住希望について	平成29年度シンクタンク事業で調査開始、継続していれば採用したい	黒部市社会福祉協議会	平成29年度シンクタンク事業調査報告書	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/1oK11dJP0xsULqsJP3j46uBA1c9mDMHB?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1oK11dJP0xsULqsJP3j46uBA1c9mDMHB?usp=sharing</a>	あり	要確認	平成30年3月	

2020/12/11 Sayoko Shimoyama, LinkData 22





第1回ろべのふくしを良くするPJ会議2020.12.11





## GOALS for 黒部 指標の算出

### 01.活動人口をふやそう

- ・市民の地域活動への参加度
- ・地域の見える化度
- ・活動のマッチング度

### 02.話すことから始めよう

- ・学ぶ機会度
- ・集い度
- ・広くつながるオープン度

### 03.すべての人々に福祉を

- ・福祉への理解度
- ・気づき力度
- ・身近な支え度

### 04.U-40代の力を活かそう

- ・参加の機会度
- ・福祉/社会教育の充実度
- ・スポット（注目）度



### 05.パートナーシップで目標を達成しよう

- ・連携度
- ・寄付/募金の金額



活動人口を増やそう



話すことから始めよう



すべての人々に福祉を



U-40代の力を活かそう



パートナーシップで目標を達成しよう





## GOALS for 黒部 指標一覧

Social - welfare indicator



1. 活動人口を増やそう	
1-①小さな地域で出番を増やす	【市民の地域活動への参加度】
1-②住民主体の意識を育てる	① 公民館の利用者数、部屋の稼働率
1-③世代間交流事業に取り組む	② 地域イベント参加者数、担い手数
	③ 地域活動参加割合（市民意識調査）
	④ 地域活動参加のきっかけとなる講座開催数
	【地域に見える化度】
	⑤ 新聞やWebの掲載数
	⑥ 福祉くろべ読者数
	【活動のマッチング度】
	⑦ イベントの募集に対する研修参加人数
	⑧ 地域イベントにおける世代間交流プログラム数



## GOALS for黒部 指標一覧

Social - welfare indicator



2. 話すことから始めよう	
2-①市内で学びあう場をつくる	【学ぶ機会度】
2-②新しい話し合いの場をつくる	⑨ 福祉伴走者、ボランティア向けの研修の数
2-③ICTを活用した「知る・学ぶ・つながる場」をつくる	【集い度】
	⑩ 組織間交流の数
	【広くつながるオープン度】
	⑪ オープンデータ率
	⑫ パブコメ数
	⑬ ICTの活用度（実証実験、LINEbot等）
	⑭ 5 goals アクセス数、シェア数、いいね数
	⑮ 情報発信力



## GOALS for 黒部 指標一覧

Social - welfare indicator



3. すべての人々に福祉を	
3-①「お互い様の支え合い」を実現する	【福祉への理解度】
3-②「声が届く地域声を見つける地域」を目指す	⑯ 「くろベネット」の認知率
3-③小地域単位での地域課題解決力を高める	⑰ 福祉に関する意識（市民意識調査）
	【気づく力度】
	⑱ SOSネット
	⑲ 相談件数
	⑳ 民生委員児童委員の相談数
	【身近な支え度】
	㉑ 認知症サポーター養成者数
	㉒ 地域支えあい推進員の数
	㉓ くろベネット支援者数
	㉔ 地域でのサロン（集いの場）数
	㉕ 意識調査



## GOALS for黒部 指標一覧

Social - welfare indicator



4. U-40の力を活かそう	
4-①小中高生の福祉に触れ合う機会を増やす	【参加の機会度】
4-②10代20代30代40代の声を入れる	⑳ 親子向けプログラム実施数
4-③全世代で福祉体験教育に取り組む	㉑ 福祉教育プログラムを実施した学校の割合
	【福祉・社会教育の充実度】
	㉒ 市内の祭りの数と若者参加数、年齢
	㉓ 議員の年齢
	㉔ 会議構成（男女比・平均年齢）
	㉕ 福祉教育講師派遣数
	㉖ 中高生の意識調査
	【スポット（注目）度】
	㉗ U-40向けのサービスやイベント



## GOALS for 黒部 指標一覧

Social - welfare indicator



5. パートナーシップで目標を達成しよう	
5-①つなぐプラットフォームを整備する	【連携度】
5-②異業種・異分野がコラボレーションする場づくり	⑳ 企業と連携した取り組み数
5-③地区同士の助け合い、連携を強化する	㉑ 行政と連携した取り組み数（協定締結数、協働事業の数）
	㉒ 社協と連携した取り組み数
	㉓ NPO、ボランティアとの連携数
	㉔ 地区間の助け合い・連携の取り組み数
	㉕ 自主防災活動の取り組み数
	㉖ 5goalsWEBサイト登録団体数
	【寄付、募金の金額（市内・市外）】
	㉗ 社協寄付、共募、義援金等の額
	㉘ ふるさと納税額

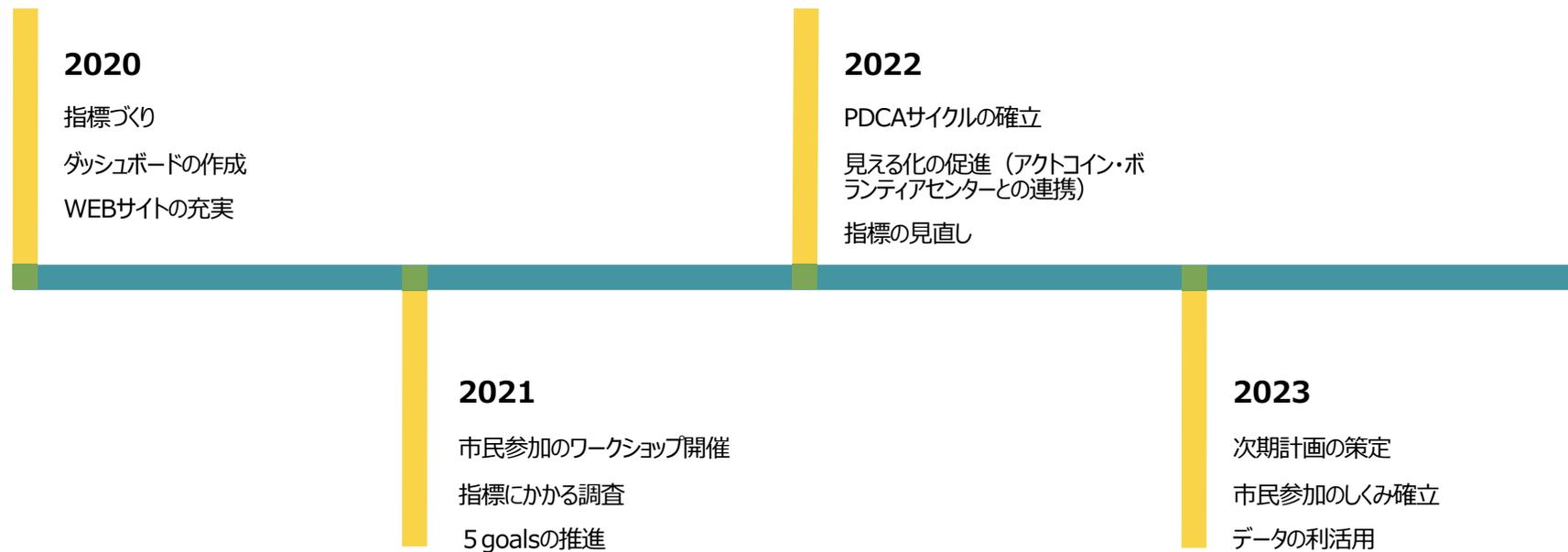


計画 -plan-

---

2020年度-2023年度

# 2020年度-2023年度までのロードマップ



# 2020年度の目標

## 指標づくり

- 市民参加のチームを立ち上げ
- 指標づくりWSの実施
- COREメンバーでのまとめ
- 見える化/データ利活用の勉強会



## ダッシュボードの完成

- 指標を見える化したダッシュボードの作成
- オンラインでのダッシュボード完成発表
- 5 goals for黒部のWEBサイトの充実



WEBサイト「5 goals for黒部」<https://5goalsforkurobe.com/>

# 2021年度の目標

## 市民参加WSの開催

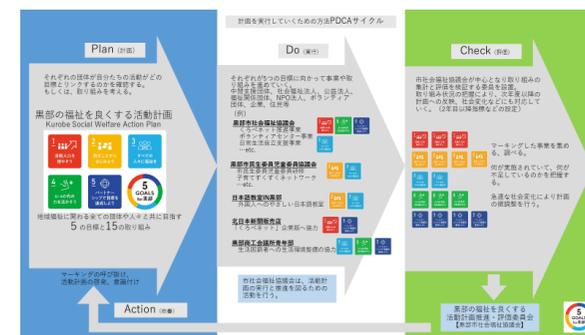
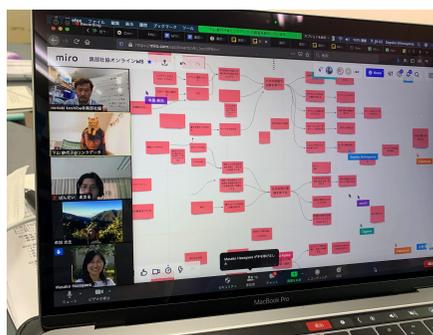
- とともに学びともに考える場の設定
- オンライン開催も併用

## 指標にかかる調査

- 社協シンクタンク事業と連携し指標にかかる調査を行う
- 福祉にかかわるデータの一元化

## 5 goalsの推進/評価

- フォーラムの開催（オンラインも検討）
- PDCAサイクル





## お互いさまの社会の実現に向けて

くろべのふくしを良くするプロジェクトチーム

事務局：社会福祉法人黒部市社会福祉協議会総務課経営戦略係



# 參考資料

## 目指すGOAL

「市民主体のまちづくり」 = 市民社会の創造  
自分たちのまちは、自分たちで良くしていく

### 仮説 (結論)

社会をもっと「見える化」  
できれば、市民が社会に参加する。

# 【活動】

場、プラットフォーム

仮説：「知れば人は動く」  
何が出来るのかが分からないだけ。

# 見える化

仮説：「人は主体性を持ちたい」  
自分たちでまちをつくる楽しさがある。

# 【しくみ】

市民参加の指標づくり

## プラットフォームの見える化



WEBサイト「5goals for黒部」  
<https://5goalsforkurobe.com/>  
共感/意識/行動変容を生み出す

仮説：「気づけば人は動く」  
みんな良くしようと思っている。

## 目標（指標）の見える化



## 推進評価の見える化



活動の見える化



## 課題や現状の見える化



# 【地域】

地域の現状や課題

## 議論の見える化



データの見える化  
データ活用  
(情報をデータに)

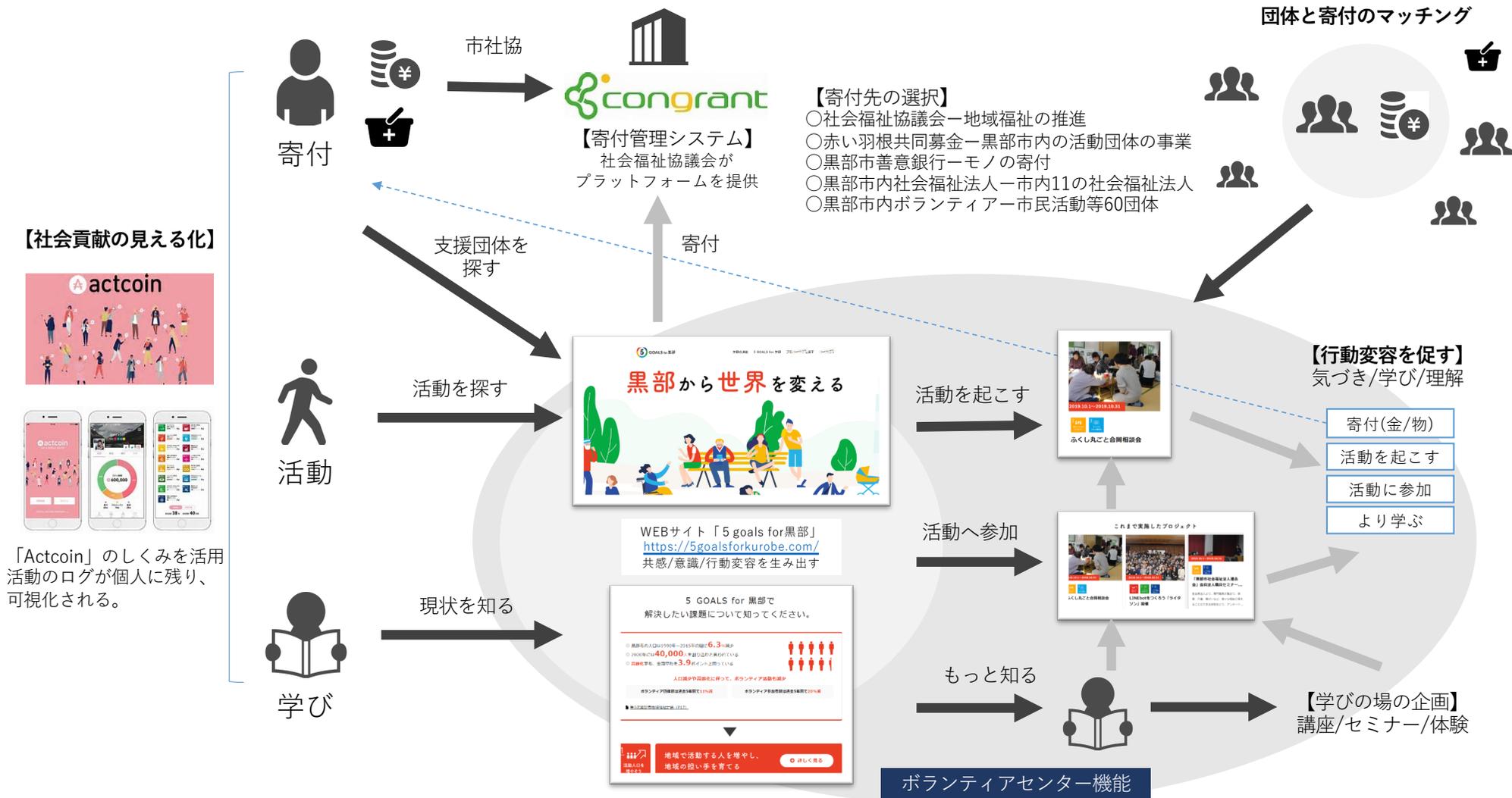




社会貢献の見える化  
ボランティアセンター機能のクラウド化  
寄付管理のシステム化を一体とした

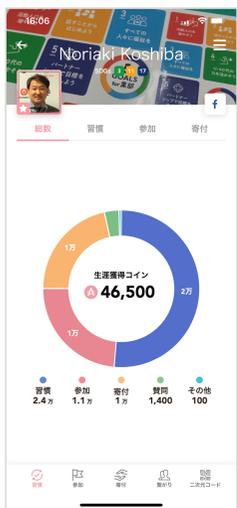
# 新たな地域主体エコシステム構築（案）

地域主体エコシステム：社会貢献の見える化/ボランティアセンター機能のクラウド化/寄付管理システム



# 社会貢献の見える化

## 【社会貢献の見える化】



「Actcoin」のしくみを活用  
活動のログ（記録）が  
個人に残り、可視化される。



習慣の記録



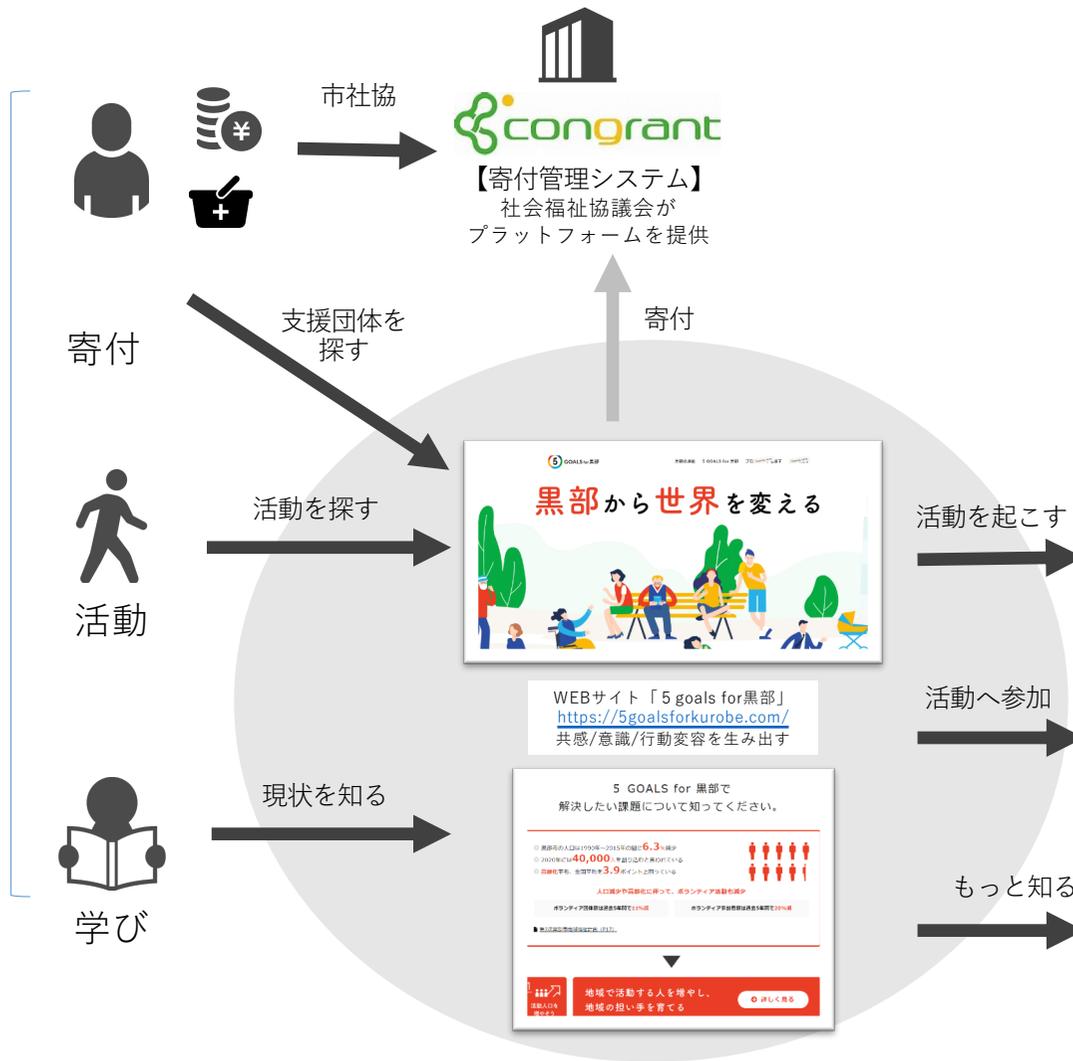
寄付した記録



習慣のチェック



活動の参加記録

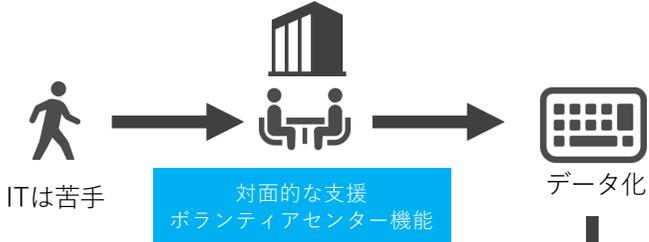


# ボランティアセンター機能のクラウド化

対面的な支援  
ボランティアセンター機能

クラウド化された  
ボランティアセンター機能

どちらも必要な機能



## クラウド化された ボランティアセンター機能



活動を探す

黒部から世界を変える

ウェブサイト「5 goals for黒部」  
<https://5goalsforkurobe.com/>  
共感/意識/行動変容を生み出す



現状を知る

5 GOALS for 黒部で  
解決したい課題について知ってください。

- 黒部市の人口は1995年〜2015年の間で6.3%減少
- 2016年には40,000人\*が移住先を黒部市に選んでいる
- 高齢化率も、全国平均より3.9ポイントも高い

人口減少や高齢化に伴って、若年人口も減少  
ボランティア登録者数は全県で11%減、ボランティア参加者数は全県で20%減

黒部市は「黒部市活性化協議会」が中心

地域で活動する人を増やし、  
地域の抱える手を育てる

詳しく見る

### 【行動変容を促す】 気づき/学び/理解

- 寄付(金/物)
- 活動を起こす
- 活動に参加
- より学ぶ

### 【WEBサイトの役割】 活動の紹介 地域の現状 課題の見える化 参加できる方法

活動を起こす

ふくし九ごと合同相談会

活動へ参加

これまで実施したプロジェクト

もっと知る

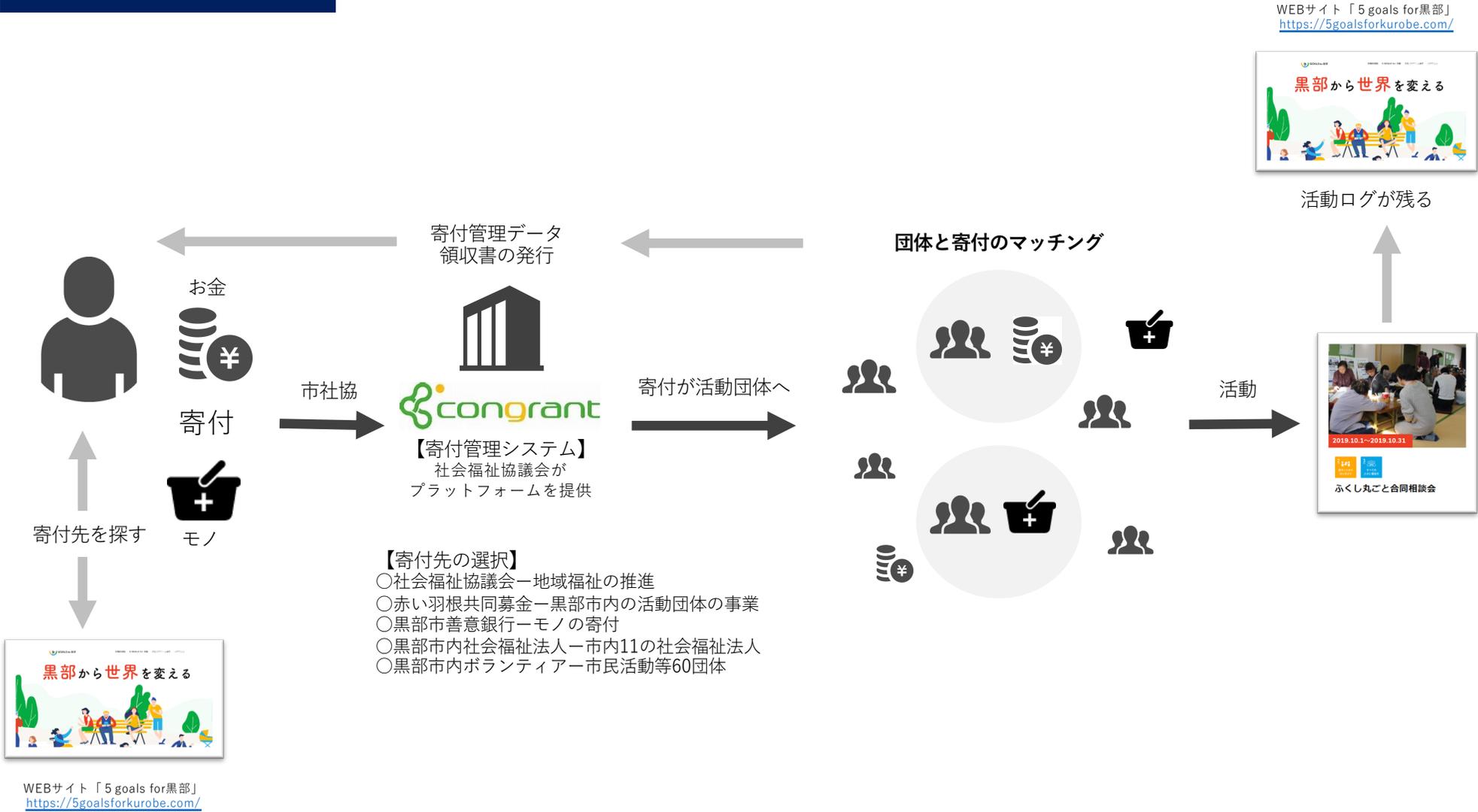


### 【行動変容】 気づき/学び/理解

- 寄付(金/物)
- 活動を起こす
- 活動に参加
- より学ぶ

### 【学びの場の企画】 講座/セミナー/体験

# 寄付管理システム





## みんなでつくる目標と指標で 持続可能な地域をつむぎ出します

CI-Labo  
Community Indicators Labo

### CI-Labo は、参加型による地域の「見える化」で 住民が主体となる地域づくりの調査・研究・実践を応援します

地域の風土や社会の構造に同じものはありません。だからこそ、そこで暮らす地域の方々による目標や指標をつくり、課題の解決に向けてみんなで動いていくことが大切です。



見える化から 気づき 参加し アクションへ

### Our Value – CI-Labo が大切にしている 3 つの視点

人口減少・高齢化が進む中、地域では様々な課題が顕在化しています。地域のデータと地域の様々な声を踏まえた地域独自の目標を参加型でつくり、目標達成への道のりを可視化する地域指標を使って評価、発信することで、より多くの人々が地域活動に参加し、繋がることを目指します。

- 1 地域に必要な情報を、分かりやすく、アクセスしやすい形で、発信します。
- 2 データと市民の力のかけ合わせを促進し、地域への参加を増やします。
- 3 住民主体の地域づくりを推進する人材を育成します。



### Our Project – CI-Labo が考える理想的な地域づくりのモデル

地域づくりにおける目的の特定、目指す姿や目標の設定、目標への進捗状況を評価するための指標づくり、指標による測定評価、アクションに至るプロセスを通して、住民の参加による地域づくりを進めます。



図形の大きさはより多くの時間とエネルギーが必要なことを、図形の色の濃さはより多くの地域住民の参加が必要であることを表しています (CIC [Community Indicators Project Development Guide]) より

### Our Work – CI-Labo の活動紹介

#### 活動支援

「黒部市地域福祉活動計画」推進をサポート

黒部市社会福祉協議会では、「黒部の福祉を良くする活動計画～第3次黒部市地域福祉活動計画」を地域目標「5 GOALS for 黒部」として参加型で策定。より多くの人々にわかりやすく伝えるため、地域データや地域活動の可視化を盛り込んだウェブサイト構築を支援しました。今後は参加型で地域指標をつくり、目標達成への進捗状況を可視化していく予定です。



#### 調査・情報発信

米国の地域指標専門家によるフォーラム開催

2020年1月、地域の課題・目標・指標を可視化し、持続可能な地域づくりを進めている米国コミュニティ・インディケーター・コンソーシアム (Community Indicators Consortium: CIC) 関係者を日本に招聘し、地域指標による地域づくりについて学ぶフォーラムを横濱市と黒部市で開催しました。



地方公共団体、社会福祉協議会、大学等研究機関、NPO/NGO等の地域活動を支援します。また、参加型の地域づくりについて学び、活動と一緒に行動する仲間も募集しています。以下のご相談、ご質問等お気軽にお問い合わせください。

- 地域課題の見える化
- データの活用 / 分析
- 対話型・参加型による目標・指標の設定及び推進
- よく分かる・深める学びの場づくり

### CI-Labo : Community Indicators Labo (シーアイラボ)

▶ 連絡先 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5F  
一般財団法人 CSO ネットワーク内 (担当: 長谷川雅子)  
[Tel] 03-3202-8188 [Email] office@csonj.org

▶ メンバー 小柴徳明 (黒部市社会福祉協議会)、鎌倉幸子 (かまくらさちこ株式会社)、牟田光生 (NPO 法人教育研究所)、宮下真美 (日本ファンドレイジング協会)、長谷川雅子 (CSO ネットワーク)

2019年度国際交流基金日米センター (CGP) の助成による「地域指標を活用したマルチステークホルダーの参加による持続可能な地域づくり～日本の学びあいから生まれる新たな挑戦～」事業の一環として作成しました。





黒部市社会福祉協議会HP  
<http://www.kurobesw.com/>  
シンクタンク報告書・広報誌がダウンロードできます。



社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会  
[koshiya-noriaki@kurobesw.jp](mailto:koshiya-noriaki@kurobesw.jp)